

レジャー・リゾートビジネスを学ぶあなたへ・・・！

関連法令やポストコロナを見据えた今後の課題や動向までを網羅した、 観光を学習する必要がある

学生・企業担当者・自治体担当者向けの教科書がついに登場！

レジャー・リゾート ビジネスの基礎知識と将来展望

千葉千枝子 著

A5判・232頁 定価：2,420円(本体：2,200円+税10%)

レジャーやリゾートビジネスについて、各ビジネスの特徴や将来的な展望までを体系的に解説！
基礎的な知識からレジャー・リゾートに関連する歴史、法律、企業の事例等を学ぶことができる！

基本的な用語から取り扱っているため
初めて学習する人でもしっかり理解できる！
日本だけでなく世界のレジャー施設、
リゾート地なども多数紹介！



第1節 レジャーの定義とレジャー産業の歴史

1. レジャーの定義 —カオクヤゲセンもレジャーの一大産業—

レジャー (Leisure) とは、仕事から解放されて休息やレクリエーションに使う自由時間のことです。ですからビジネス生活や自己啓発、教育を目的とした旅行などは、基本的には含まれません。それでも、読者の皆様は近似的には、たくさんレジャーが読まれています。

日本人の平均寿命は世界でもトップクラスで長く、長寿大国といっても過言ではありません。男性の平均寿命は81.64歳、女性は87.74歳 (2020年厚生労働省調べ) で、女性は世界第1位、男性は第2位です。平均寿命とは、その中に生まれた0歳児が平均で何歳まで生きることができるかを予測した数値のことです。生きた年数が増えれば増えるほど、平均で言えば、0歳児の平均寿命を指しています。各年齢での死亡リスクを平均して、平均で生れ、あと何年生かされるかというのが平均寿命です。その見込みを推計しているのです。

その平均寿命とは別に、自由時間という考え方があります。私たちにほしい、どれくらい自由時間があるのでしょうか。実は、計算式が簡単です。

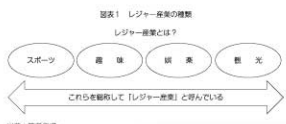
「自由時間」の計算式
①現在の年齢から平均寿命まで、あと何年あるか。
②1年365日、1日24時間を出してみましょう。
あなたの自由時間、
(平均寿命-現在の年齢) × 365 × 24 = _____ 時間

ここで算出された自由時間には、労働時間や学びの時間などが含まれてい

ます。そうして考えてみると、レジャーに費やすことができる時間は意外と取られているのわかります。

〔人生100年時代〕といわれています。そのための健康寿命も大きな関心事になりました。健康で長生きしたい。健康ビジネスもまた、レジャー産業の一翼を担っています。また、余暇活動を楽しむためのビジネスが、時代の潮流にもなっています。例えば、ハッピー・リタイアメントやシニアクラブ、ライフシフトという言葉が、近ごろよく聞くようになってきました。

そこで注目されるレジャー産業を整理してみましょう。
レジャー産業 (Leisure Industry) とは、自由時間、すなわち余暇に消費されるサービスや製品を提供する産業の総称です。余暇関連産業ともいわれます。レジャー産業には、カラオケやパチンコ、ゲームセンター、スポーツジムや映画、日帰り温泉施設も含まれます。近ごろは、シニアゲームセンターで楽しむ姿をよく見かけるようになりました。老若男女、私たち大衆のライフスタイルにレジャー産業は、大きく関わっているのわかります。



川区観光にある「あけぼの道」です。観光客を呼び込むために観光客を始めたのが由来です。

鉄道がポイラーによる湧かし湯で温泉成分が含まれていませんが、大泉上方では温泉と名乗る温泉が比較的多く、建物の雰囲気も東西異なります。東日本は温泉は大工が手がけたものも多く、築瓦と呼ばれる切妻葺りや唐破風の屋根がかけられ、富士山を描いたベンチの彫像が施されています。一方で西日本では、ベンチではなく、タイルに絵を描いたタイル絵が用いられているなどしています。

大泉町生野区の湯ヶ原温泉 (2000年開業) は、温泉の発掘者としては初めての温泉有形文化財に登録されました。1937年開業の末吉2階建ての昭和モダニズム建築です。

このように文化財はほかにもあり、貴重な観光資源になっています。もとは料理師・舟岡健 (1929年) から始まった京都府の湯島温泉や、東京都台東区上野の高島、徳島県吉野の天社温泉、三重県伊勢市の「乃湯」が温泉有形文化財に登録されています。今も営業しています。愛知県津島市の今治ラヂウム温泉も登録されていますが、2014年以降、営業状態はしていません。文化財保護法に基づき国の重要文化財に指定されている公共浴場は2つあり、一つは愛知県松山市の湯津温泉、もう一つは長野県諏訪市の片倉温泉です。片倉温泉・片倉温泉旅館の二代目片倉兼太郎氏が創業50周年を記念して建てた片倉温泉は、1928年に竣工した洋風建築で、千人風呂の大浴場が今も当時のまま利用されています。

■ケーススタディ 松山・道後温泉

道後温泉は石川県白山市の温泉地として知られてきた。道後温泉本館が完成した1904年の温泉のことでした。国の重要文化財に指定されている道後温泉本館は、神の湯本館のほか、反魂湯 (1899年)、玄湯 (1904年) (いずれも1924年) から構成されています。

道後温泉は、壮大な近代建築様式に感嘆し、のちに雑誌「ホトギス」に発表した小説「おつちやん」のなかで紹介しています。

さかのぼること1899年、道後温泉 (当時) 初代町長の伊佐藤英次 (1829-1907年) は、朽ちかかっていた道後温泉本館を「この道後温泉が100年たっても真似の出来ないものを作ることこそ温泉である。人が集まれば100年、百姓や職人の暮らしも良くなる」と語り、自分の給料も出して改築費用を出しました。

伊佐藤氏は1893年、道後温泉への温泉旅館として道後温泉 (1900年、現在の伊予鉄道に吸収) を創業させた。近代松山の発展の礎を築きました。松山市の街で2018年、道後温泉本館と湯の宮、飛騨ノ湯を合わせた総入浴客数は116万3,400人でしたが、1897年当時の道後温泉入浴客数は10万人人を数えており、いかに変わっていったかが分かります。

④ 都市型温泉施設の特徴

今はなき東京温泉 (1951-1993年) は、商業施設 GINZA SIX の裏手、銀座6丁目 (現在のビューリック銀座ワールドビル) にあった都市型の温泉施設です。当時は珍しい4階建ての建物でした。

この会社は、JR東京駅八重洲口の八重洲地下街にもサウナの東京クープ・東京温泉ステーションラゲージを、同じく1951年から経営していました。2009年に民事再生法適用によって閉鎖していますが、東京温泉ステーションラゲ

具体的な事例を交えた解説で
内容がイメージしやすい構成！



第一法規

東京都港区南青山2-11-17 〒107-8560
<https://www.daiichihoki.co.jp>

Tel. 0120-203-694
Fax. 0120-302-640

はじめに

第1章 レジャービジネスの基礎

第1節 レジャーの定義とレジャー産業の歴史

第2節 温浴施設とレジャー産業

第3節 映画・カラオケとレジャー産業

第2章 遊園地とアミューズメントパーク

第1節 遊園地とアミューズメントパーク

第2節 日本の遊園地の歴史と発展

第3節 世界の遊園地とレジャー産業の発展

第3章 テマパークのビジネス

第1節 テマパークの特長

— 統一かつ排他的がキーワード —

第2節 世界のテーマパークの歴史と現状

第3節 日本の外資テーマパーク

第4節 コト消費と日本のテーマパーク

第4章 ディズニーのビジネス

第1節 パークからリゾートへ

第2節 ディズニーのビジネスモデル

第3節 オリエンタルランドのビジネス

第5章 アウトレットのビジネス

第1節 アウトレットの歴史と発展

第2節 アウトレットのビジネスモデル

第3節 進化するアウトレット・ビジネス

第6章 リゾートの基本

第1節 リゾートの定義と種類

第2節 リゾートの概念

第3節 世界の温泉リゾートとグランピングの潮流

第7章 日本のリゾート

第1節 日本のリゾートが形成されるまで

第2節 日本の伝統的リゾート地

第3節 ウィンターリゾートの可能性

第4節 日本の温泉リゾート

第8章 リゾートビジネスの基礎

第1節 リゾートビジネスの基礎

第2節 さまざまなリゾートビジネス

第9章 沖縄とリゾート

第1節 沖縄の歴史と観光

第2節 沖縄のリゾート開発

第10章 クルーズビジネス

第1節 クルーズ客船の歴史と発展

第2節 クルーズビジネスの基本と特長

第3節 日本のクルーズビジネスのこれから

第11章 カジノ・IR(統合型リゾート)

第1節 世界におけるカジノの潮流

第2節 日本のIR(統合型リゾート)

第3節 ポストコロナのカジノリゾート

参考文献 / おわりに

詳細・お申し込みはコチラ

<クレジットカードでもお支払いいただけます>



第一法規

検索

CLICK!



キリトリ線

申込書 (第一法規刊)

レジャー・リゾートビジネスの基礎知識と将来展望

●定価2,420円(本体2,200円+税10%) [コード077842]

申込部数

部

*弊社宛直接お申し込みいただく場合、一回のご注文でお届け先が一箇所、お買い上げ合計金額5,000円(税込)以上のご注文は、国内配送料サービスといたします。また、お買い上げ合計金額5,000円(税込)未満のご注文については、国内配送料550円(税込)にてお届けいたします。

*消費税は申込日時の適用税率に依ります。

◎上記のとおり申し込みます。代金については、次に示す方法にて支払います。

*現在、弊社とお取引のないお客様につきましては、代金引換にてお支払いをお願い申し上げます。

(いずれかを✓で選択ください。) 代金引換により支払います。 現品到着後請求書により支払います。*代金引換手数料について
一回あたりのお購入金額
(商品の税込価格+送料)の合計が1万円以下の場合、330円(税込)
3万円以下の場合、440円(税込)
10万円以下の場合、660円(税込)*送料・代引手数料を含む合計金額は、商品のお届け時に配送業者
に現金でお支払いください。その際、クレジットカードはご利用い
ただけません。

年 月 日

〒 〇〇〇〇〇〇
ご住所

機関名

部署名

公用
私用

フリガナ

TEL

ご氏名

様

E-mail

@

お客様の個人情報の
取扱いについて

お客様より預かりした個人情報は、納品や請求書の発送・アフターサービス、弊社製品・サービスのご案内などの目的のために利用させていただきます。また、お客様の個人情報は、弊社ホームページに掲載のプライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います。なお、個人情報についての照会、修正・削除・利用停止を希望される場合、その他お問い合わせにつきましては、お問合せフォーム(https://www.daiichihokai.co.jp/support/contact/contact.php)からフリーダイヤルにてご連絡ください。フリーダイヤル TEL.0120-203-696 FAX.0120-202-974

取扱い

この申込書は、ハガキに貼るか、
このままFAXで下記宛お送りく
ださい。

■宛先

〒107-8560

東京都港区南青山2-11-17

第一法規株式会社

FAX.0120-302-640

書店印